ここではないどこか

中山友莉菜
デザイン工芸コース

日本画／和紙・墨・岩絵具・水干絵具／h1620×w2273

もうひとつの王国で

戸出桐子
造形芸術コース

わたしの日常生活をもとに２０点のイラストレーションを制作しました。

平面作品／ペン・アクリル絵の具・銅版画／250mm×w200mm

季節に合わせた帯留

上杉汐里
デザイン工芸コース

祖母の着物に合わせ、季節の植物をモチーフにした帯留を制作しました。

変わりゆく季節に合わせて、着物の着こなしのワンポイントとなればいいなと思います。和装のおしゃれを楽しんでもらいたいです。

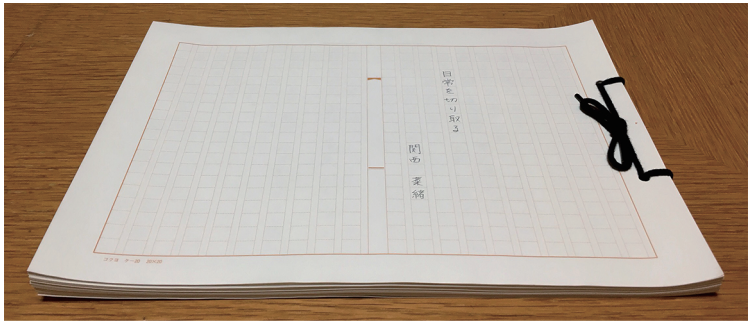
ジュエリー／精密鋳造・銀／h7×w148×d94mm

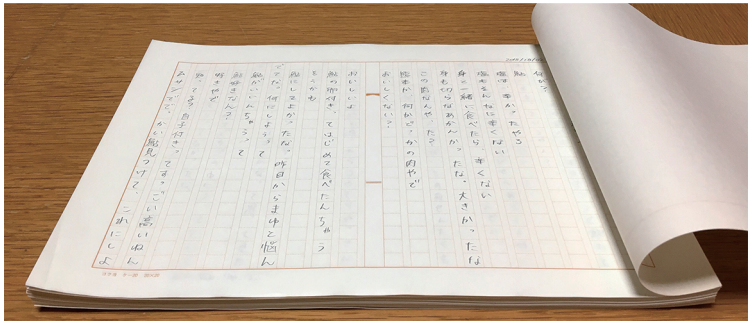
日常を切り取る

関西菜緒
造形芸術コース

今回の取り組みで、私は何か特別なものを作り出そうとするのではなく、自分がいつも自然体で居られるような、そんな制作がしたいと思った。
自分にとっての日常は、身近な人たちとの会話で成り立っている。そうやってなんとなく過ごしている日々を、私は少しずつ忘れていってしまう。
だけど、その積み重ねの中にこそ、なんでもない幸せがあるんじゃないかな、と思う。

そこで、私は日常の会話を切り取る研究を試みた。





コンセプトアート／原稿用紙・鉛筆／h210×w297×d10mm

手土産用パッケージデザインの提案

山岸夕莉
デザイン情報コース

富山県内の自家焙煎珈琲豆の専門店である「くれは珈琲焙煎堂桝カフィ」さんに手土産用のパッケージデザインを提案し、実際に展示販売を行った。

・店の名前にちなんで実際に桝を使用するパッケージ
・和洋折衷な店舗の雰囲気に合わせる
・和柄をモチーフに珈琲豆を融合させ、銘柄のイメージにあったカラーリング

以上の点を踏まえながら制作した。ちょっとした手土産や日常的にやりとりされるプチギフトは注目されており、自分も取り組みたいと思ったため、このテーマを選んだ。

パッケージデザイン／Illustrator・和紙・木／h57×w83×d83mm

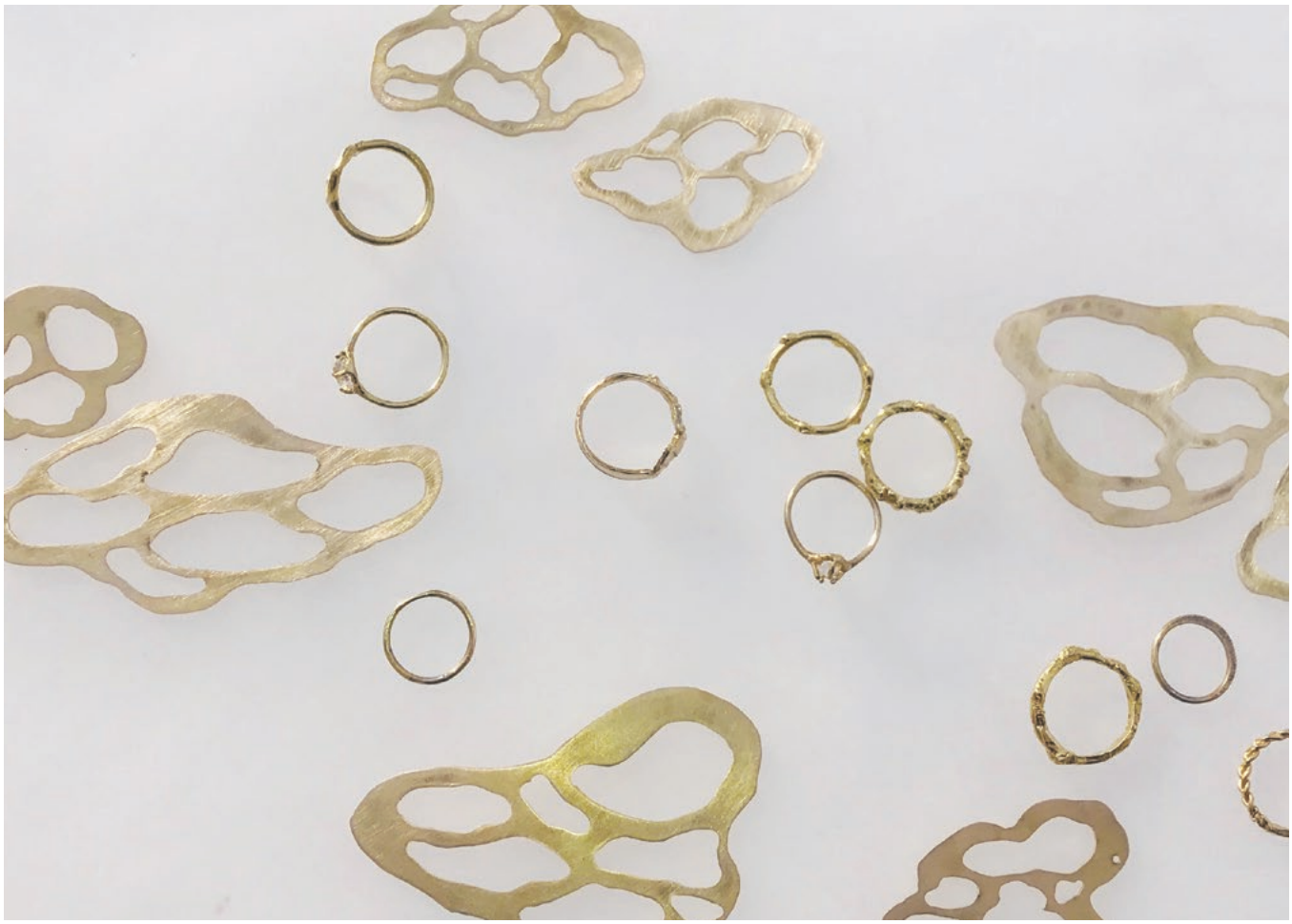
Fukayama, Aoi *accessories*

accessories

真鍮・ガラス・石など
h30×w1200×d900mm

深山 碧生
デザイン工芸コース

真鍮、ガラス、石など様々な素材を用いて装身具を制作しました。重い、軽い、柔らかい、硬い、ザラザラ、つるつる、透明、不透明、どれをつけてみたいか、どんな人に似合いそうか、想像しながら眺めてみてください。



Nishimura, Ayaka *Our Adult*

ぼくたちのおとな

アクリル絵の具・水性ペン・水彩色鉛筆
画用紙・木製パネル
原画 h257×w410mm
　　h257×w205mm
絵本 h182×w257mm

西村 彩花
造形芸術コース

Kawamura, Kaori *Making cartoons with the theme of "choice of life"*

「人生の選択」をテーマとした漫画制作

ー夢見る少女は本音が言えないー

ペンタブレット・CLIP STUDIO
φh210×w148mm

河村 郁
デザイン工芸コース

「ちいさなプライドを傷つけないように、他人から見た自分ばかり気にして、本当にかっこ悪い。」

高校３年生の芸人を目指す主人公が、大学を受験するのか、養成所を受けるのか、人生の選択を迫られ、自分の本当に進みたい道は何なのかを考える葛藤の物語。

人と違う道、普通じゃないことを選択をすることは怖い。でも本当に怖いのは、実際には存在しない " 普通 " に縛られて自分の心を騙し、自己の主張がなくなってしまうことだ。この漫画を通して、自分には何が大切なのか、どう生きたいのかを考える機会になって欲しいと考えこの作品を制作した。

Kawakami, Yuko *Study on goods cheer for men's idols.*

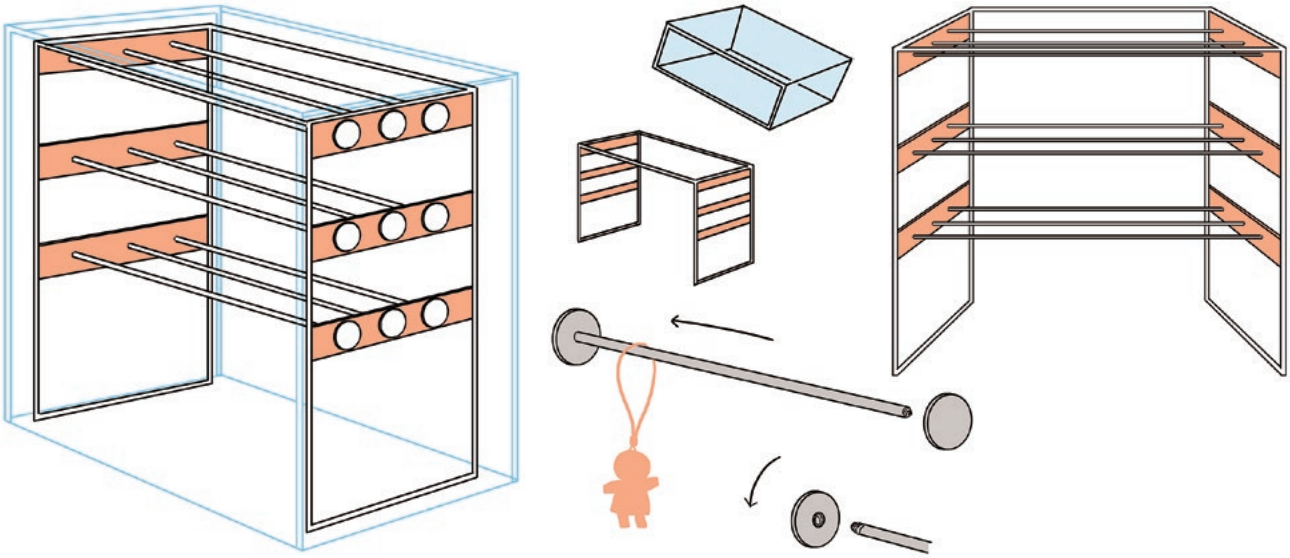
男性アイドルを応援するグッズの研究

川上 裕子
デザイン工芸コース

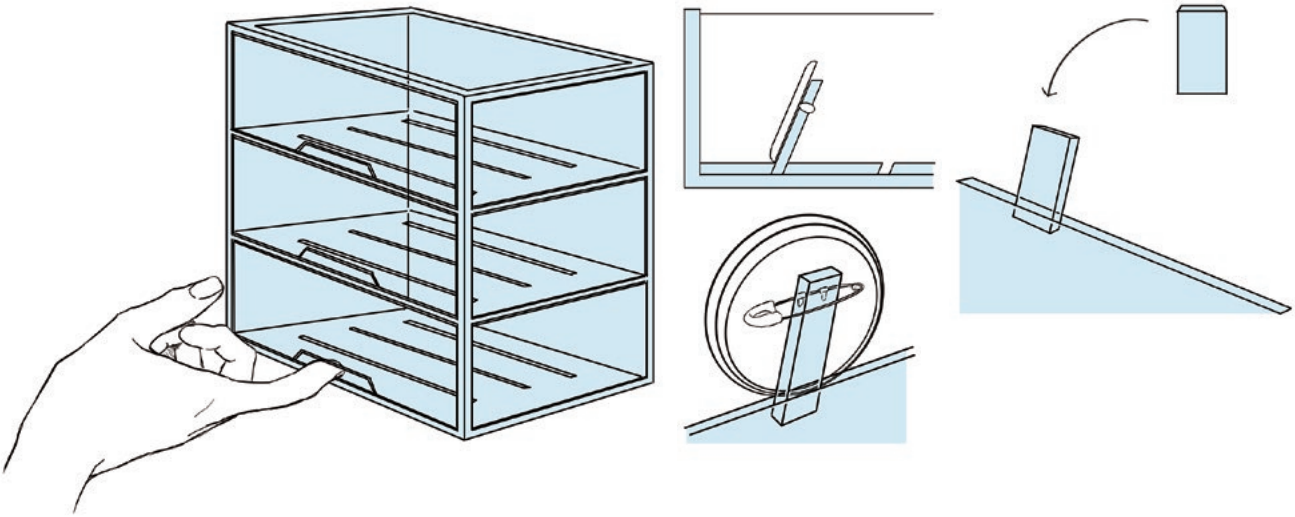
男性アイドルを応援するものはファンの声援だけではない。会場で販売されるグッズも彼らを応援するひとつの形である。ファンの応援したいモチベーションを保つため、またより気持ちを高めさせるためにそれらグッズのディスプレイを考案した。

主に販売されているグッズはライブに欠かせないうちわやペンライト、そしてブロマイドやポスターなどの壁に飾るもの、缶バッジやキーホルダーなど身につけるもの、またアクリルスタンドなど部屋に飾るものなど多種にわたって展開されている。グッズを身につける習慣がないひとは上記に挙げた缶バッジやキーホルダーの封を開けずにそのままにしている場合も少なくない。グッズの中でもとりわけ出てくる数の多いそれらを有効的に飾るために前後の幅や段差を使ってカスタマイズ出来るようにしている。飾る行為そのものを楽しいと感じてもらい、日常の中で目に映る楽しみを持ってもらうディスプレイケースになるようにした。

ストラップディスプレイケース



缶バッジディスプレイケース



Sato, Mai *Lovely Instagram to home meal.*

インスタ映えする おうちごはん

インスタグラム
@_310mg_

佐藤 真衣
デザイン工芸コース

ありふれた日常を魅力的に見せることで、SNS をもっと楽しむことができる。
「インスタ映え」を目指して、食器制作から、調理、写真撮影を行い、
アプリ内での活動に取り組んだ。

本研究の目的は、沢山の写真で溢れているインスタグラムで、
いかに魅力的な写真をアップするか、その空間をつくることが出来るかを考え、
「インスタ映え」を一から目指すことである。

Ueno, Midori *Study of editorial design using Latin fonts*

欧文を用いた誌面の研究

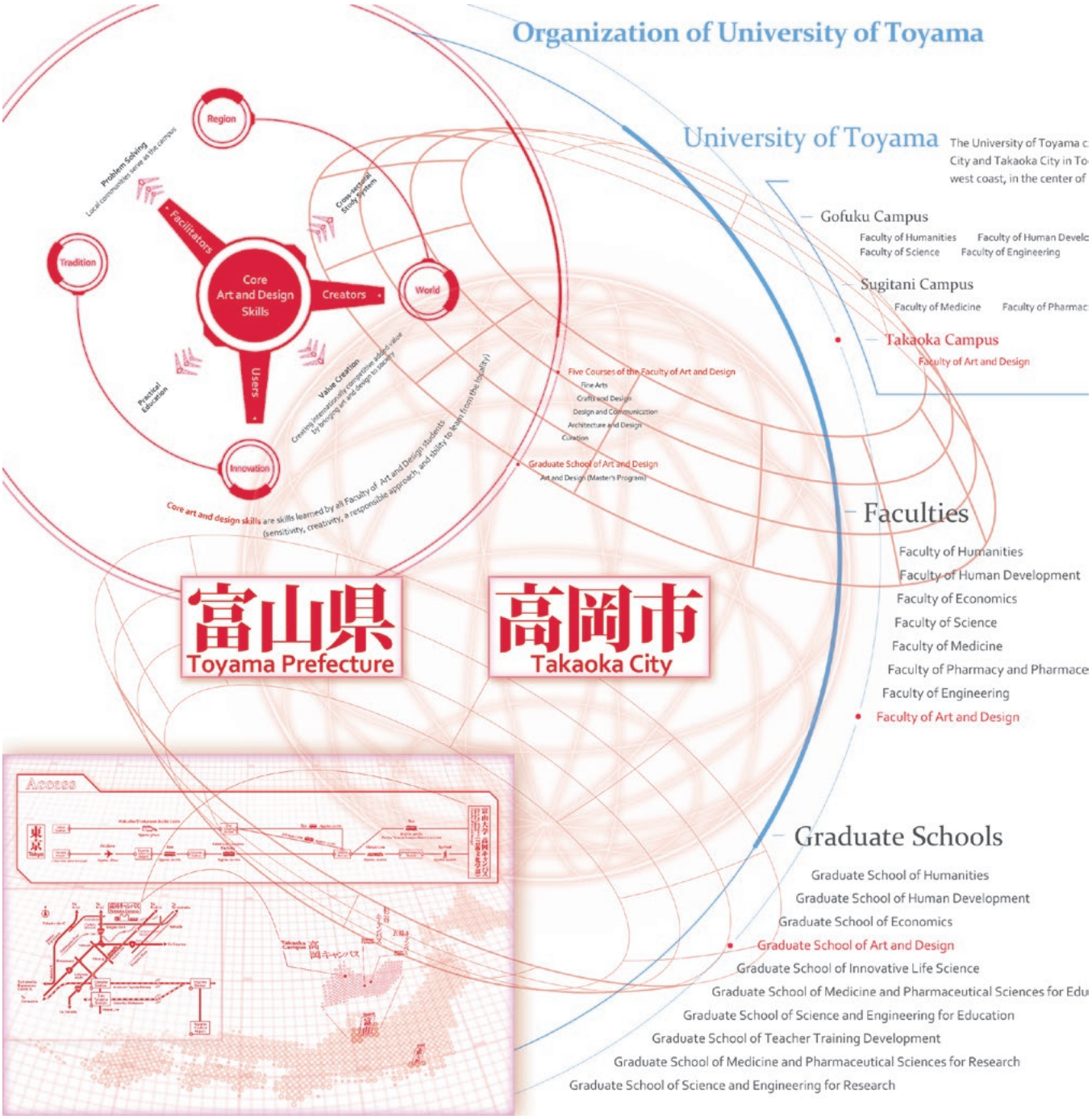
エディトリアルデザイン
h297mm×w210mm

上野 碧
デザイン情報コース

アニメとかマンガは日本の誇れる文化になり得ない、そういった価値観が少なからず残っている日本。

「和」をほぼ使わず、アニメキャラクターやテクノロジーを組み合わせて「日本」を体現してみせたあのオリンピック閉会式は、そういった意味で革新的だったと思う。そしてそれが国外からも評価を得た。その事実は、「和」だけが誇れる文化だという考えって古いんじゃない？という価値観を日本人につきつけているように思う。

そんなことを考えながら、芸術文化学部の英語版パンフレットを制作。若い外国人が主な読者だと想定している。日本のアニメ・マンガにおける近未来的要素をメインに据え、国内外問わず魅力的な未来の創造を担う芸術文化学部、といったものを演出しようという試みだ。



Yaneshita, Chiaki *Colorful*

カラフル
ーチタンを用いたネックレスの制作ー

チタン・鍛金・陽極酸化
h100×w250×d320mm

屋根下 千晶
デザイン工芸コース

色から音を感じるものを作りたいと思い、魅力的な色彩表現ができる上に人の肌に優しいというチタンの特色を活かしてネックレスを制作しました。また制作にあたり、葉をモチーフに、女性の心の強さや繊細で華やかな雰囲気を出すことを心がけました。このネックレスが奏でる音を感じていただけたらと思います。

Nagahama, Satomi *Sea glass and Tin*

シーグラスと錫

シーグラス・錫
ロストワックス鋳造・生型鋳造
ジュエリー：h120×w40mm～h290×w160mm
皿：h20×w70×60mm～h15×w150×d150mm
照明：h60×w110×d90mm

長浜 里美
造形芸術コース

私の身近な素材の１つとして、シーグラスがあります。

そのシーグラスと鋳造技法を用いて作られたものを見たことがありませんでした。そこで融点の低い錫であれば、シーグラスと鋳造技法を組み合わせることが出来るのではないか？と考えました。

身に付けるものや生活の中で使うものとして、生まれ変われるシーグラスの魅力や錫特有の性質が組み合わさることで可能性を広げることが出来たと思います。

しかし、まだまだシーグラスと錫で生まれる形は潜んでいると思います。その可能性をみなさんと共有し、想像を膨らませていただけたら嬉しいです。

さがす・つける・みつける

真鍮

向島 千尋
Mukoujima, Chihiro
デザイン工芸コース

海で見つけたつるつるの石。山で拾った木の実。誰でも、自然の中から何かを見つけたことがあると思います。自然の中を歩いて、自分だけのお気に入りを探し出す体験をジュエリーで表現しました。

ここにあるたくさんの指輪は、自然のかたちをイメージしています。この中から、お気に入りのかたちを探し、指に着けてみてください。また、自身の記憶にある自然を思い出しながら、名前を付けてください。

地域文化活動における美術教育指導法の考察

A study of teaching methods of art education in the regional cultural activities.

植原 房代
Uehara, Fusayo
デザイン情報コース

要旨

本論文は、地域文化活動を美術教育に取り入れる方法と効果を考察したものである。第２章において、文部科学省の示す内容を踏まえて地域文化活動を、①学校教育の様々な学習機会の中で生徒が地域文化に触れること、②学校と地域が連携し、地域を活動の場として教育活動を行うこと、と定義した。第３章において、学校の隣接する地域で実施される地域文化活動に参加した高校生へのアンケート調査から、美術活動への意欲や鑑賞の能力などが育まれていたことや、礼儀や人との関わりの大切さ等の道徳性も養われていたことを明らかにした。第４章において、地域文化を題材にした美術活動を美術科の無い高等学校の高校生に取り組ませる実践報告を行った。そして結論において、美術活動を通して地域文化や地域の人たちと関わろうとする生徒の意識を高めるために、学校内で行う地域文化活動は①漠然と活動に取り組ませるのではなく、項目を設定することで生徒が豊かに発想することができるようにすること、②活動を行う前に地域文化について調べる時間を設け、興味関心を抱かせるようにすること、③生徒に活動の目的を導入段階で確実に理解させ、主体的に活動ができるように促すこと、といった３つの過程を含ませることによって効果的に実施できることを見出した。

1．はじめに

地域文化活動に参加した筆者の経験から、地域文化活動に参加することは、「活動から自らの考えの幅を広げられたり、地域の人との関わりの中で社会的な学びが生まれたりするなど、社会の一員であることの喜びを感じられるもの」だと考えている。しかし筆者の参加した地域文化活動において、ボランティア参加していた高校生たちは参加する意欲の無い表情を浮かべていた。

近年、教育の一環としてボランティア活動への関心の高さがうかがえる。しかし単に生徒をボランティア活動に参加させるだけでは、高められた興味関心を失わせる可能性があると考える。地域で実施される活動に生徒をただ参加させ、未知な効果や危うさを生徒に与えるのではなく、学校内で緩やかな学びとして地域文化活動を提供し、確実に生徒達へ地域文化に興味・関心を持たせることが学校教育の役割ではないかと考え本研究を行うことにした。

2．教育に資する地域文化活動の定義

教育に資する地域文化活動の定義を、以下のように定義づけた。

文化芸術の振興に関する基本的な方針より、文部科学省における教育に資する地域文化活動とは、①学校教育の様々な学習機会の中で生徒が地域文化に触れること、また学習指導要領より学校教育における地域文化活動とは、②学校と地域が連携し地域を活動の場として教育活動を行うこと、と定義できると考えた。（参考文献を参照）そこで本研究における教育に資する地域文化活動の定義は①及び②を含むものとした。

3．地域文化活動に参加した高校生を対象に行った意識調査

地域文化活動に参加することへの意識や、参加したことによる学びについてアンケート調査を行った。対象は 富山県高岡市で行われる「金屋町楽市inさまのこ」にボランティア参加した高校生である。

アンケート調査より、地域文化活動に参加して直接作品を見たり、作家と交流したりすることで、美術活動への意欲や、美術作品のよさや作者の意図を感じ取り理解を深めるといった、鑑賞の能力などが育まれていることが分かった。また、礼儀や人との関わりの大切さといった道徳性も養われているということも分かった。

4．地域文化活動の実践報告

【題材名】「伏木マップをつくろう！」

【学習目標】活動を通して社会に自ら参加していこうとする意識を持たせる

【題材観】授業を通して、生徒に地域文化資源を発見させ、地域文化振興の一環を担っている意識を育ませたいと考えた。そこで地域を俯瞰して捉えることのできるマップ作りを生徒に取り組ませる。

次	学習活動	配時
1	○身近なマップのデザインについて知る ○地域の良いところを再確認する ○マップの大まかなデザインを考える	1
2	○マップに載せる内容を考える ・載せたい情報を調べ、整理する（文章） ・マップに載せたい写真の内容を決める（写真） ・マップに載せたい絵を決める（イラスト）	2
3	○伏木地域に出てマップに載せる写真を撮影する	1
4	○マップを制作する	4
5	○制作したマップを鑑賞する ○自分の活動を振り返る	1

第１次では、ワークシートを用いて地域の良いところを見つけさせる活動を中心に行った。その結果、キーワードを「おすすめの場所」「伏木にしかないもの」「伏木の好きなところ」「伏木高校の魅力」とすることで、生徒に地域の良いところを具体的に発想させることができた。

第２次では、学校から提供して頂いた資料やパソコンを使って、マップに載せたい情報を分担して調べる活動を行った。その結果、地域について知らなかった新しい発見をさせたり、地域文化について関心を抱かせたりすることができた。（写真１）

第３次では、伏木地域にてフィールドワークを行った。その結果、実際に地域に出ることで、学校内では気づかなかった発見をさせることができた。また、生徒になぜフィールドワークを行うのか目的を理解させた上で活動に取り組ませることにより、主体的に活動させることができた。（写真２）

第４次では、マップの制作を行った。作業を「地図を書く」「写真を整理する」「配置を決める」「タイトルを制作する」と分担させた。その結果、チームで制作を行っていることを意識させることで、生徒一人一人が責任を持って制作に取り組むことができた。

第５次では、完成したマップの鑑賞を行った。振り返りワークシートを用いて、完成したマップを「内容の分かりやすさ」「文字の読みやすさ」「目的地の探しやすさ」「自分たちで見つけた地域のよさの伝わりやすさ」を軸としてレーダーチャートで示させた。その結果、制作したマップを俯瞰して見ることができた。また、今までの活動を個人の活動やグループワークについてなど、項目ごとに振り返りをさせることで、活動によって学んだことの充実感や達成感を味わい、次の活動への意欲が育まれた。

写真 1. 調べ学習の様子

写真 2. フィードワークの様子

5. 結論

以上の考察をもとに、美術活動を通して地域文化や地域の人たちと関わろうとする生徒の意識を高めるために学校内で地域文化活動を行う際は、「（1）漠然と活動に取り組ませるのではなく、項目を設定することで生徒が豊かに発想することができるようにすること」、「（2）活動を行う前に地域文化について調べる時間を設け、興味関心を抱かせるようにすること」、「（3）生徒に活動の目的を導入段階で確実に理解させ、主体的に活動ができるように促すこと」といった、３つの過程を含ませることによって効果的に実施できることを見出した。

謝辞

本研究は様々な方々の御協力を賜りました。末筆ながらここで皆様に感謝致します。「金屋町楽市inさまのこ」において、アンケート調査の御協力を賜りました、高岡市役所の皆様、加藤外次郎様、富山県立高岡工芸高等学校、富山県立高岡西高等学校、富山県立高岡商業高等学校の教員の皆様並びに生徒の皆様に御礼申し上げます。

また特に富山県立伏木高等学校での実習を御承諾して下さいました、宮岸毅校長先生、実習中に数々の御助言をして下さいました横山雅彦先生、授業に一生懸命取り組んで下さった生徒の皆様に心より感謝申し上げます。

［参考文献］

○文部科学省/中学校学習指導要領解説　美術編/日本文教出版株式会社/2008
○http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf
○http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k20021217001/k20021217001.html

Sakana 3

鍛金・銅・銀
h240×w1200×d1200mm

大舘 佳奈
Odachi Kana
研究生